

奄美地域の施設下における抑制インゲン、早熟インゲンの栽培方法

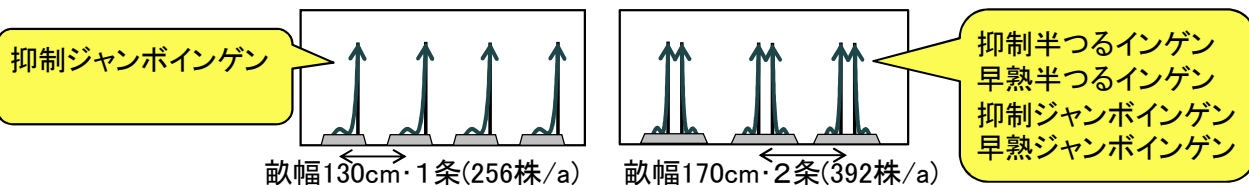
栽培様式や播種時期など生産性向上のための最適な栽培方法

背景・目的

- 奄美地域では、台風被害や冬場の強い季節風の影響を受けやすく、野菜の生産が不安定。
- 奄美地域平張施設における高収益園芸品目を明らかにしたが、高収益実現には単作では難しく、これらを組み合わせた輪作体系の確立が必要。
- 生産性向上のための最適な栽培方法を明らかにする。

成果の内容

- 各作型、品目の生産性向上のための最適栽培様式



- 早熟作型の播種時期は1月下旬が適する

播種時期	1月			2月			3月			4月			5月			半つるタイプ		ジャンボタイプ	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	商品収量	粗収益	商品収量	粗収益
1月下旬		●														1,805	1,370	2,233	1,484
2月上旬			●													1,413	1,056	1,733	1,167

● : 播種時期 ■ : 収穫 (単位: 商品収量: kg/10a, 粗収益: 千円/10a)

1月播種で
多収・高粗収益

- 早熟インゲンは液肥栽培により畝連続栽培が可能で、施肥・畝立て作業が省力できる

	半つるタイプ				ジャンボタイプ			
	商品収量 kg/10a	粗収益 千円	労働時間 h	粗収益/h 円	商品収量 kg/10a	粗収益 千円	労働時間 h	粗収益/h 円
慣行基準施肥	1,390	1,024	320	3,148	3,535	2,551	351	7,223
畝連続液肥	1,849	1,354	370	3,613	3,445	2,447	321	7,575
慣行対比(%)	133	132	116	115	97	96	91	105

畝連続栽培
で時間あたり
粗収益向上

- 最適な技術の組み合わせで生産性が向上
輪作体系の収益性(H27年度徳之島支場実績(千円/10a))

	半つるインゲン		ジャンボインゲン	
	抑制	早熟	抑制	早熟
粗収益	1,816	1,354	1,816	2,447
粗収益計	3,170		4,263	
主な経費	1,041		1,251	
償却費	443		443	
経費計	1,484		1,694	
農業所得	1,686		2,569	

注) 県農業経営管理指導指標をもとに試算

- 畝連続栽培は、施肥・畦立て24h/10aが省力可能

生産性向上により高収益が実現可能に

導入
メリット



平張施設



半つるインゲン



ジャンボインゲン

期待される効果

- 高収益園芸品目の導入により、奄美地域施設野菜農家の所得向上が図れる

鹿児島県農業開発総合センター徳之島支場園芸作物研究室

普及対象・範囲
奄美地域の平張施設を含む施設野菜農家